

## インフルエンザ情報

国立感染症研究所感染症情報センター（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）は、「インフルエンザ流行マップ第06週（2月4日～2月10日）平成25年2月13日現在」を平成25年2月15日に公表した。

（コメント）

2013年第6週の定点当たり報告数は26.70（患者報告数131,544）となり、第4週の定点当たり報告数36.44をピークとして2週連続で減少した。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約155万人（95%信頼区間：144万人～166万人）と前週の推計値（約208万人）よりも減少した。年齢群別では5～9歳約25万人、0～4歳約20万人、10～14歳、30代がそれぞれ約19万人の順となっている。また、2012年第36週以降これまでの累積の推計受診者数は約881万人（95%信頼区間：854～908万人）であった。

都道府県別では愛知県（42.47）、鹿児島県（40.69）、新潟県（39.62）、愛媛県（36.52）、広島県（34.48）、岩手県（34.19）、富山県（32.38）、秋田県（32.11）の順となっている。44都道府県で前週の報告数よりも減少がみられた。

第6週は、京都府において集計後にデータ修正作業が行われたことにより、その後の地図作成作業に京都市以外の京都府の各保健所地域のデータが反映されていない。京都府（京都市以外）を除いた全国の保健所地域で警報レベルを超えているのは377箇所（47都道府県）、注意報レベルのみを超えているのは154箇所（43都道府県）となった。

2012年第36週以降これまでの国内のインフルエンザウイルスの検出状況をみると、AH3亜型（A香港型）の割合が最も多く検出されている。詳細は感染症情報センターホームページ（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html#graph>）を参照されたい。

なお、第02週～第06週までの都道府県別の定点当たり報告数の推移【感染症情報センター発表の「感染症発生動向調査週報」等を基に機構で作成】

※定点とは、発生動向調査の観測用に選ばれた医療機関のことで、地域の流行状況について全体の傾向を可能な限り反映できるように、保健所ごとに設定されています。

